

(別紙2－4)

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	特定非営利活動法人 ふれあいサポート	代表者	理事長 松本恵美子	法人・ 事業所の 特徴	小規模多機能の主旨である「在宅生活の継続の支援」という点を重視し運営している。特に訪問介護事業を先行して行ったことで「訪問サービス」のノウハウをすでに有し、文字通り「通い」「宿泊」「訪問」の多機能サービスを利用者の生活に合わせ柔軟に対応している。さらに地域の災害要請支援者の避難所として指定された通り、また同法人運営の認知症カフェにより、地域住民の方々にも広く周知頂くようになり地域との連携も強化している。基本理念である「あるがまま」に利用者を受け入れ住み慣れた地域、自宅で出来る限り過ごして頂けるように支援している。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ふれあいの家	管理者	竹内里加		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	介護相談員	合計
		1人	3人	人	人	1人		2人	2人	9人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・各利用者の能力や背景を正確に理解し引き続き個別性の高い支援を行うために、計画作成者だけではなく、職員全員が効果的なアセスメントができるようになる。具体的には利用者ごとの担当を決めて継続的なアセスメントを行う。	・利用者ごとの担当者を決め、アセスメント、モニタリングを必要時、または定期的に行う事ができた。また、担当を決めたことで担当者会議への参加の機会を作ることができた。	・担当制を確立したことで、職員がこれまで以上にアセスメントを意識した目線で利用者に関わることができるようになった。また、状態が変わった時等に情報が集まりやすく、ケース会議での検討が効率的にできるようになった。	・地域での生活を維持するために、家族、地域、自施設以外の様々なサービスを検討し、一人の利用者にできるだけ多くの支援の手が差し伸べられるように検討する。
B. 事業所のしつらえ・環境	・テーブルの位置を柔軟に変更し、その日の利用者の機能に合った配置を考える。	・比較的自立度の高い方は日によって席を変える事に抵抗があり、なかなか受け入れてもらえない事があった。同じ話を繰り返す利用者に対して、他の利用者が疲弊してしまう事もあり、タイミングを見て介入するなどの配慮が求められる場面が見られた。	・事業所内は明るく匂いなどもなく、快適な空間である。 ・作りかけのレク用品等の整理整頓ができるが良い。	・事業所内の整理整頓に努める。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域の方を巻き込んだ行事を企画し、早めに案内を出し参加しやすい計画を作る。	・駄菓子販売、パンの委託販売、移動スーパーを行った。また、大きなイベントとして、秋祭りを開催。市内の和太鼓チームによる発表、軽食の販売、占い等のブースを設け、地域の方にも楽しんでいただく機会になった。地域の清掃活動への参加をした。	・色々な企画を通して、地域の方にも事業所に足を運んでいただく機会になった。秋まつりは好評だった。今後もこのような機会を設け、地域との交流が図れるとよい。	町内行事に参加する機会を増やす。具体的には町内会長や老人会、子供会からの情報を早めに得て参加の調整を行う。事業所の行事も積極的に発信し、地域の方が参加しやすい内容を組み込む。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の行事に利用者を連れて参加する機会を増やす。エコマップを作成する。	・訪問時に訪ねてきた町内会長と本人の間に、町費の支払い方法を相談し支払いのルールを決めたり、電化製品の故障時に地域の電気屋さんに連絡し、修理をお願いした。値域の方もこの方ことは把握していて、スムーズに連携を図る事ができた。	・外食やお寺の参拝、市役所のイベントへの参加等、積極的に外出の機会を設けた事はよかった。特にウナギを食べに行った際にはよそ行きの服装で来られる方もいて楽しんでいただけた。	各利用者を取り巻く地域の方や社会資源を最大限に利用し、少しでも長く自宅で暮らせるように支援する。

E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・評価項目をあらかじめお知らせすることで来所の際のチェックポイントを意識していただくようになる。具体的には第1回目の運営推進会議のなかで地域関わりシート①の内容をお知らせする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議であらかじめ外部評価の説明をする機会を持った。 ・ミーティング様式と地域関わりシートをお渡しする際に文書での説明は行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の役員の方は年度で交代されるので継続的な運営は難しい。 ・地域の心配な方の情報は個人情報の保護の問題もあり、共有するのが難しい。 	運営推進会議の場で、地域の方からの意見を聞きやすい内容に見直す。具体的には一方的にふれあいの家の情報をお伝えするのではなく、参加者の方に具体的質問を投げかけ、ご意見を頂く機会にする。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の際に避難訓練を実施し、地域の方にも参加いただける機会にするとともに、事業所の避難の状況を知っていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に合わせて防災訓練を行うことができた。今年は消防署員によるAED講習会を開催することができた。 ・地域の方に福祉避難所の説明をする機会がなかった。 	町内の役員が事業所の防災用品について把握しているか？それができる事でより強い連携ができるのではないかな。	(継続) 地域の方に、福祉避難所の役割とルールを伝え、災害時に地域防災の一端を担えるように働きかける。